

2013 年 4 月～2026 年 7 月に

四肢の脈管奇形に対する硬化療法を受けた患者さんへ

「四肢脈管奇形に対する硬化療法後の術後疼痛の実態に関する研究」へのご協力をお願い

1. 研究の目的

当院では、四肢の脈管奇形（血管やリンパ管の異常）に対する治療として、病変部に硬化剤を注入して病変を縮小させる「硬化療法」を行っています。硬化療法は、外科的な切除手術と比べて体への負担が小さく形態や機能を温存しやすい治療法ですが、硬化剤が血管やリンパ管の内皮細胞に強い炎症を惹起するため、治療後に患部の腫れや痛みが生じることがあります。

硬化療法は繰り返し行うことが多いため、患者さんの負担を減らすには適切な痛みの管理が極めて重要ですが、硬化療法後の急性疼痛についてはこれまで十分な検証が行われていませんでした。そこで、当院で行われた硬化療法後の痛みの程度や頻度を明らかにし、強い痛みが起きやすい患者さんの特徴（関連因子）を検討して、より安全で有効な術後疼痛管理につなげることが本研究の目的です。

2. 研究の方法

- ① **研究対象**：当院で 2013 年 4 月 1 日～2026 年 7 月 31 日までに四肢の脈管奇形に対する硬化療法（全身麻酔下）を受けた 16 歳以上の患者さん
- ② **研究期間**：倫理審査委員会承認後～2027 年 12 月 31 日
- ③ **研究方法**：電子カルテのデータから、患者背景、手術・麻酔の内容、硬化剤の種類や量、術後の痛みの程度（術後疼痛スコア）、どのような対応をしたか（使用した痛み止めの種類や使用回数など）について調査し、統計学的に分析します。

3. 研究に用いる情報の種類

年齢、性別、身長、体重、手術の内容、麻酔の方法、術後疼痛スコア、術後の鎮痛薬使用量など

※ 患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報とは調査対象ではなく、個人情報は保守されます。

4. 情報の公表

研究内容は麻酔科関連の学会発表や学術論文の形で公表する予定です。

5. 研究実施機関

杏林大学医学部付属病院

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

○照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

杏林大学医学部付属病院 麻酔科 関 博志
住所：〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2
電話：0422-47-5511（内線：22410）

○研究責任者：

杏林大学医学部付属病院 麻酔科 関 博志